

建設産業委員会県外調査

調査日／平成26年11月13・14日
調査地／静岡県袋井市・吉田町
調査事項／平成の命山の整備・津波避難タワーについてほか

袋井市は最大10メートルと想定される津波発生時の避難施設として昨年、「命山」という人工の高台を沿岸部に整備しました。約1300人が収容可能で平時は公園として市民に開放されるということです。

一方、吉田町では昨年、全国で初めて道路上に歩道橋型の津波避難タワーを整備しました。町道の上空に整備することで、新たに用地を取得する必要がなく、早期に整備できるということです。

津波から身を守るためには、まず安全な場所へ逃げるのが重要です。そのために町は安全な避難場所を確保しなければなりません。このたびの2つの先進地の視察により、それぞれの避難施設について、建設場所やコスト、管理面などで様々なメリット・デメリットがあることがわかりました。本町にとって最も効



吉田町の歩道橋兼用津波避難タワー
(1,200人収容可能です)

果的な避難場所の整備方法は何か、今後も引き続き調査研究を行ってみたいと考えています。

皆さまから寄せられたお便り



●議員の方々、町民ひとりひとりのより良い暮らしのためよろしくお願いします。活動の内容が良く分かります。海田市駅へ行く道路をもっと広げて下さいね!バイパスの渋滞、どうにかして!!(50代 女性)

●海田町浜角から三迫団地へ上がる坂道の始まりにある交差点(海田南小の近く)に信号はつかないのでしょうか?事故がとても多いので、小さい子どもを持つ親としては不安です。ご検討ください。(30代 男性)

●(浜角ちびっこ公園では)子どもたちがよく遊んでいます。草を刈って下さりいつもありがとうございます。(30代 女性)

●妻も仕事をしているので、児童クラブを利用させてもらっていますが、長期休暇中の朝が8時半からだ、妻が仕事に間に合わないみたいです。もう少し早い時間から預かっていただけないでしょうか?(30代 男性)

※たくさんのお便り、ありがとうございました。これからもどんどんお寄せください。待っています。